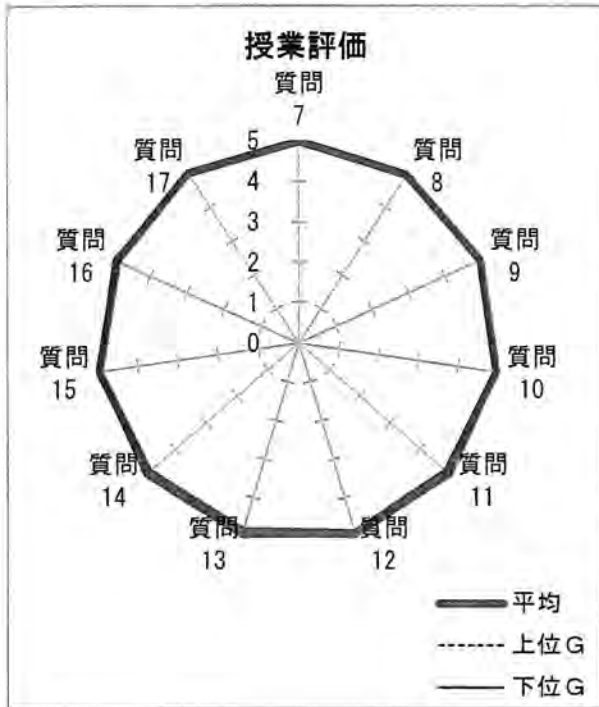


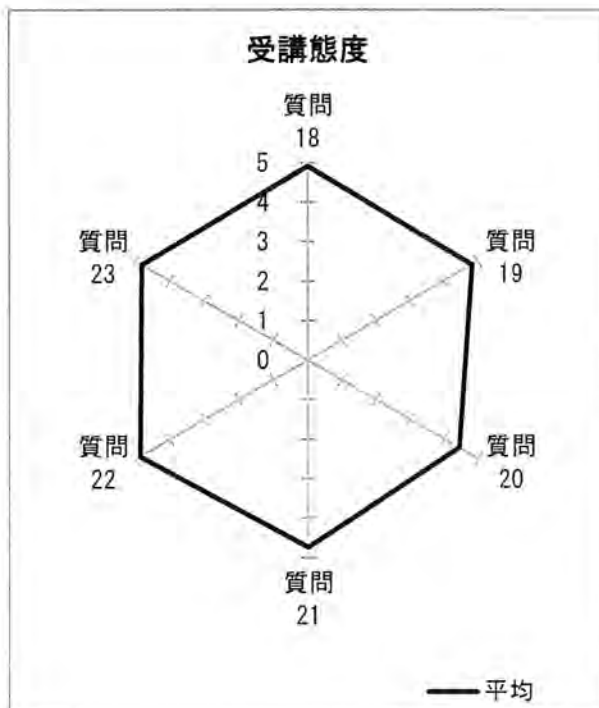
科目コード 127 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Sheila Norris キリスト教学 IV (英語4年)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問10	5.0	5.0	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.9	4.9	5.0
質問13	4.9	4.9	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	5.0	5.0	5.0
質問16	4.9	4.9	5.0
質問17	5.0	5.0	5.0
平均	4.9	4.9	5.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.4
質問21	4.7
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学科・文学部	英語学科	Sheila Norris	キリスト教学 IV	23

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

The results are very pleasing, and reflect the positive attitude of the class during the year. I just hope that the students will remember something of what they learned in the Christian Studies classes and Chapel Hour over their four years here.

II. 2019 年度に向けての取り組み

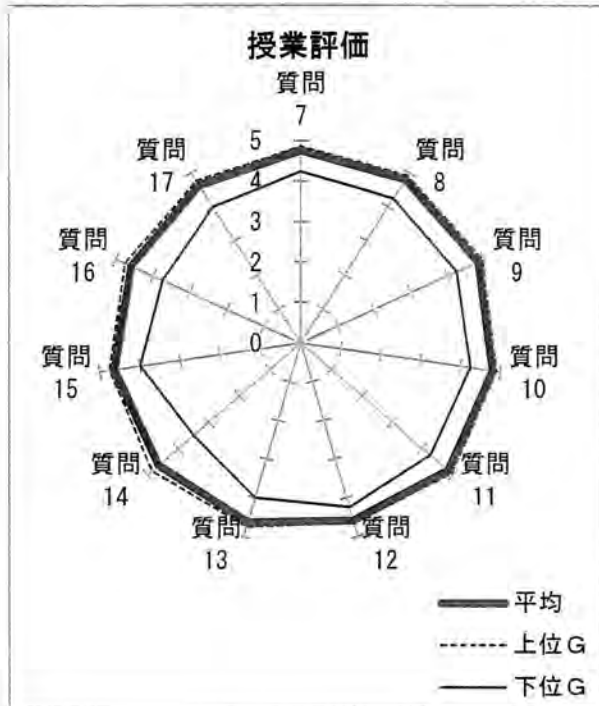
2019 年度担当予定科目名 : キリスト教学 IV

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I will continue with the same pattern, with a variety of approaches to the materials, and try to keep the classes as student-centered as possible. However, some activities that worked with this group will not be possible with double the number of students in the following year-group, so some adaptation will be necessary.

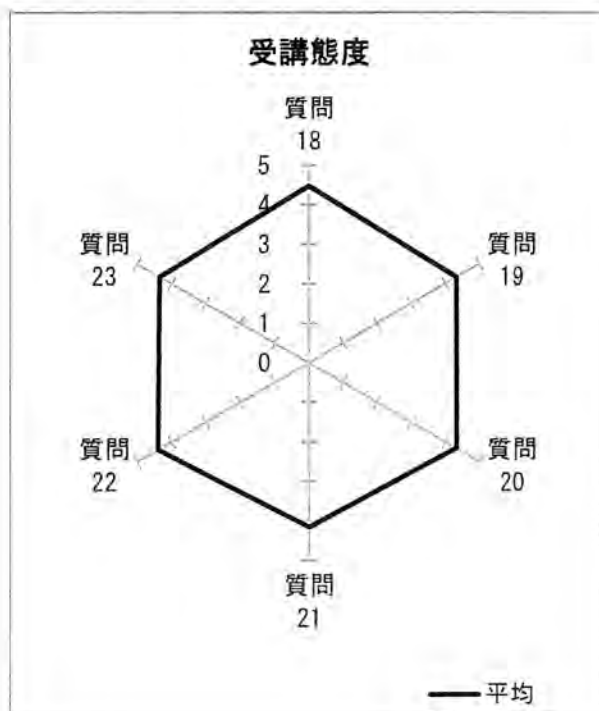
科目コード 136 (2018年度 後期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Richard Bent 英語 II (英語1年)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.9	4.3
質問 8	4.8	4.9	4.3
質問 9	4.8	5.0	4.3
質問10	4.8	4.9	4.3
質問11	4.8	5.0	4.3
質問12	4.6	4.7	4.3
質問13	4.6	4.8	4.0
質問14	4.6	4.9	3.5
質問15	4.6	4.8	4.0
質問16	4.6	4.8	3.8
質問17	4.6	4.8	4.0
平均	4.7	4.8	4.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.3
質問21	4.2
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	英語 II	21

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

The emphasis on this semester's class was being able to write well-developed English paragraphs. Students learned about topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences. The results of the questionnaire were encouraging in that the students seem to feel they have learned from this class. For some students in the class, this class was a review of concepts they were already familiar with, but at the very least, they learned English terminology for grammatical words and the parts of an English paragraph.

II. 2019 年度に向けての取り組み

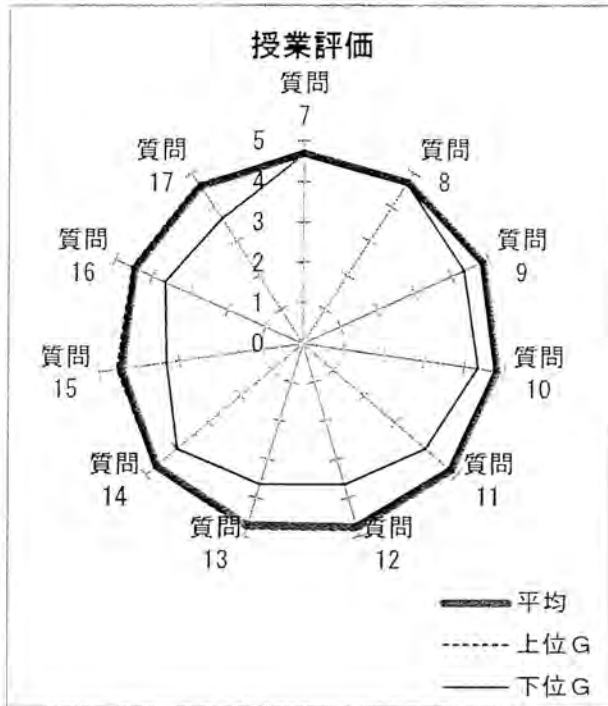
2019 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

This course will not be offered in the next academic year. However, a new course, Paragraph Writing, will be available and will cover the same material with the same text. As such, I would recommend the new course be taught in the same vein as this class.

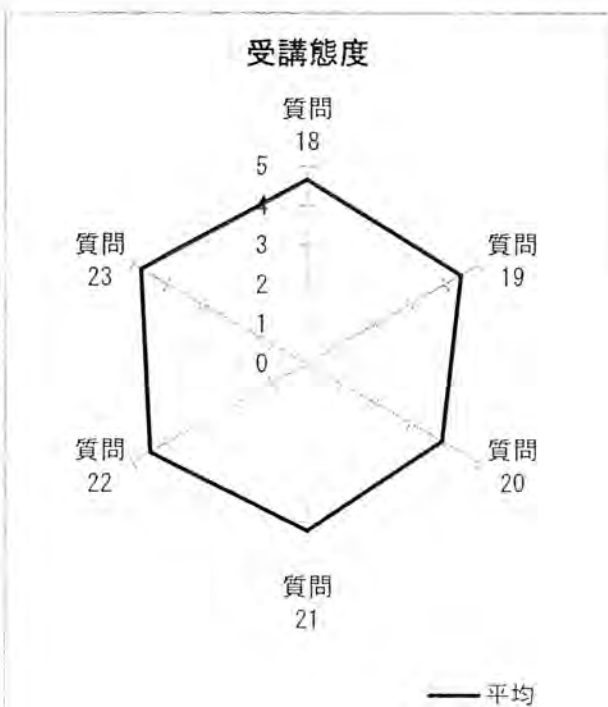
科目コード 222 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 村元 宏行 教育制度論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	4.7
質問 8	4.7	4.7	4.7
質問 9	4.8	4.9	4.3
質問10	4.8	4.9	4.3
質問11	4.8	4.9	4.0
質問12	4.8	4.9	3.7
質問13	4.7	4.8	3.7
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.5	4.6	3.3
質問16	4.5	4.6	3.7
質問17	4.6	4.7	3.7
平均	4.7	4.8	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	3.9
質問21	4.2
質問22	4.5
質問23	4.8
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したが
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	村元 宏行	教育制度論	35人

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価について、一番評価の低かった項目は「授業を理解できたと思うか」という項目であり、次いで「新しい知識・技術・理論等の習得への可能性」で、前回、低い評価であった「教員の説明のわかり易さ」については改善されたと考えてよさそうです。

教育制度は『教育六法』を開き、教育法規の条文を参照しながら授業を行うこともあって難解に感じる学生が多い中、説明のわかり易さについては改善されたものの、私が学生の理解度をよく確認せずに一方的な授業を行ってしまっている結果、依然として授業を理解できていない学生が多いものと考えられます。

また、法規の無機質な条文を通じて教育制度を学ぶことが、結果として教職に就くにあたってどのような意義があるかを私が十分に説明できずに授業を行ってしまっている状況について、あまり改善されていないものと反省しています。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：教育制度論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

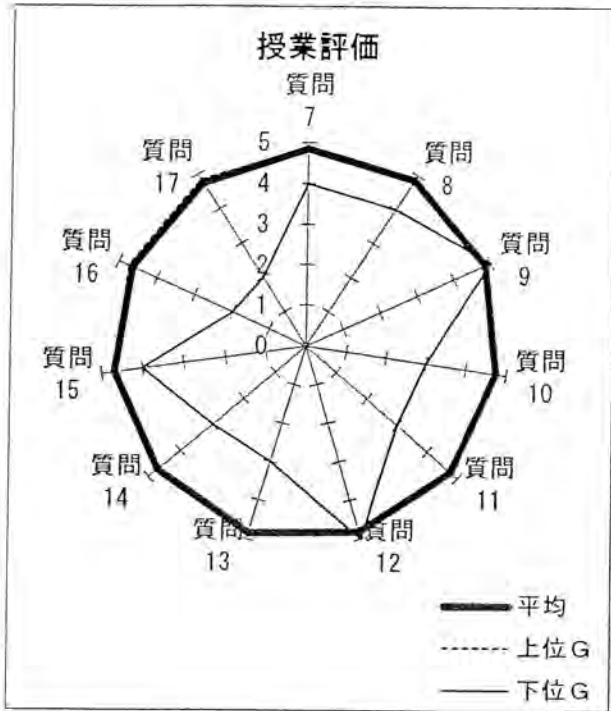
次年度に向けては、教育制度を学ぶことが教職に就くにあたってどのような意義があるかについて引き続き十分な説明を行い、学習の動機付けを行うことを意識するようにします。このことは前年度も記しましたが、更なる改善に努めます。

また、学生の多くが社会科学を主専攻とはしないことに十分留意し、理解状況について細かく確認しながら授業を進めることとします。

さらに、授業でスクラップを行っている1年生とは異なり、ほとんどの学生が新聞を手にするのではないとのことです。はじめから学生が自分で授業内容を時事問題と結びつけて考えてくれるのを期待するのではなく、まず授業内で私の方から関連記事を提供するようにし、それによって学生が自分から時事問題に興味を持ってもらえるように促していきます。

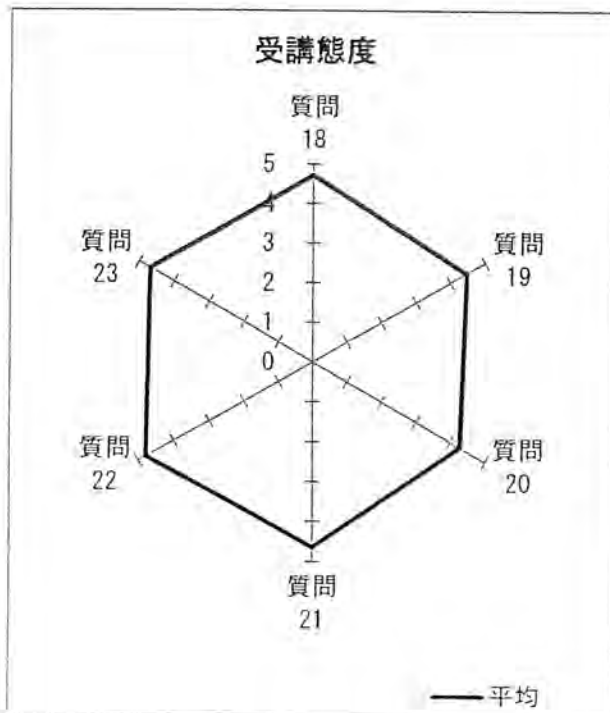
科目コード 226 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 原田 拓馬 教育方法学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	4.0
質問 8	4.9	4.9	4.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.8	4.8	3.0
質問11	4.8	4.9	3.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	4.9	4.9	3.0
質問14	4.7	4.8	3.0
質問15	4.7	4.7	4.0
質問16	4.6	4.7	2.0
質問17	4.8	4.9	2.0
平均	4.8	4.8	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.3
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	原田拓馬	教育方法学	30

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価に関して、概ね高い評価が示された。しかし、回答の内訳を確認すると、いずれの質問項目でも「どちらかといえばそう思う」と回答した受講者が 1～5 名程度いる。特に質問 14「(自分は) 授業を理解できたと思うか」、質問 15「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」については「どちらかといえばそう思う」以下の評価回答をした受講者が 5 名程度いるなど、改善の余地がある。

II. 2019 年度に向けての取り組み

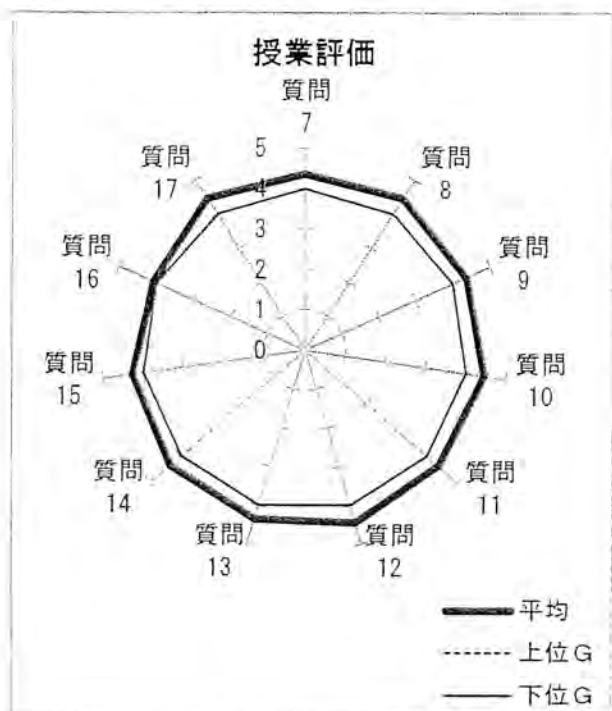
2019 年度担当予定科目名：教育方法学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

受講者の興味・関心・意欲を引き出し、授業理解度を高めるような教育方法上の工夫に取り組みたい。特に個々の受講者が取り組んだ課題に対してフィードバックを丁寧に行いたい。

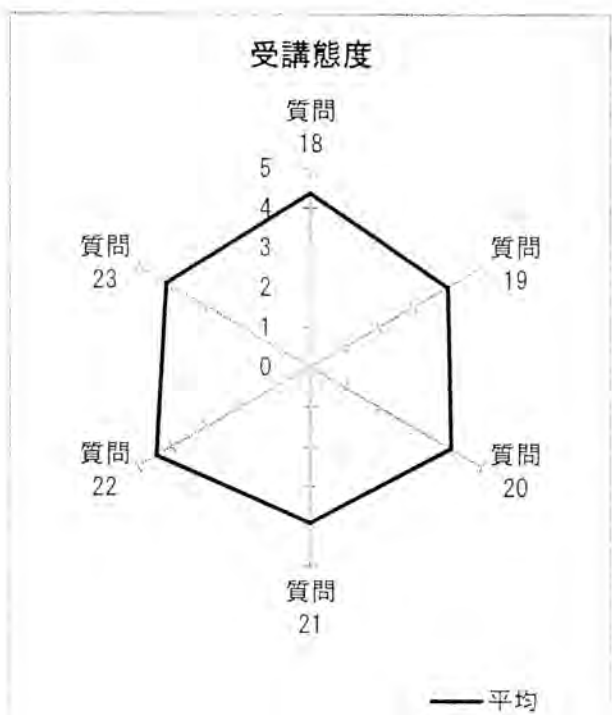
科目コード 246 (2018年度 後期)

国際文化・文学部 日本文化学科 田浦 知子 図書館制度・経営論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.4	4.0
質問 8	4.5	4.5	4.0
質問 9	4.4	4.4	4.0
質問10	4.5	4.5	4.0
質問11	4.4	4.4	4.0
質問12	4.5	4.5	4.0
質問13	4.4	4.4	4.0
質問14	4.4	4.4	4.0
質問15	4.3	4.3	4.0
質問16	4.1	4.1	4.0
質問17	4.5	4.5	4.0
平均	4.4	4.4	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.0
質問20	4.1
質問21	3.9
質問22	4.5
質問23	4.2
平均	4.2

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	田浦 知子	図書館制度・経営論	24

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

図書館を支える基盤を学習する科目です。

理屈が多く、なかなか興味がわきにくかったかなと思います。

制度というものが、暮らしの必要に応じて設定されていることを理解してもらうために社会でおこった事象をからめて説明するようにいたしました。

説明するだけで終わったようなので、今後は工夫をしてゆきたいと思います。

II. 2019年度に向けての取り組み

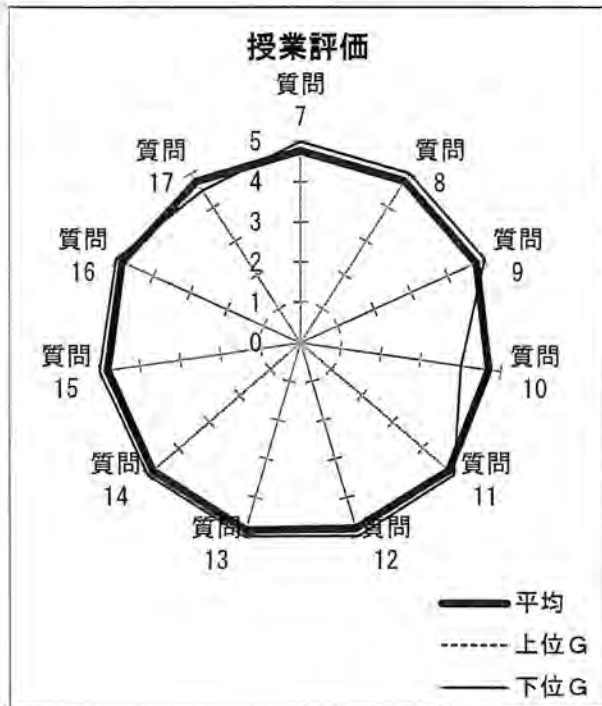
2019年度担当予定科目名：図書館制度・経営論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

図書館に関連する事件等の情報提供を拡充し、事件等に対してどのように考察するか、各自の意見をまとめる機会をつくりたいと思います。

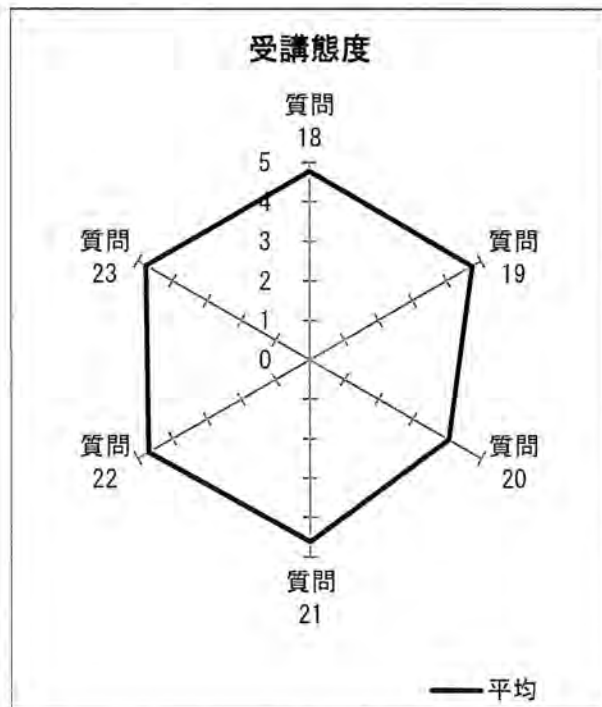
科目コード 402 (2018年度 後期)

音楽学部 音楽学科 草場紀久子 音楽の世界



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.7	4.8	4.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.8	4.8	5.0
質問16	4.8	4.8	5.0
質問17	4.8	4.8	4.5
平均	4.8	4.8	4.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.7
質問20	4.0
質問21	4.6
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	草場紀久子	音楽の世界	40名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問項目に対しては、おおむね高評価を得ている。

教養科目として全学科学学生対象の音楽の授業であるが、高校までの文部科学省の指導要領に沿ったいわゆる音楽の授業とは違い、大学ならではの教養科目としての在り方が受け入れられていると評価できる。具体的に言うと、本学の特徴であるキリスト教文化とも絡めての講義から、一方で現代の音楽の新たな動きまで概観するなど、広く教養意義を感じる内容としている。

II. 2019年度に向けての取り組み

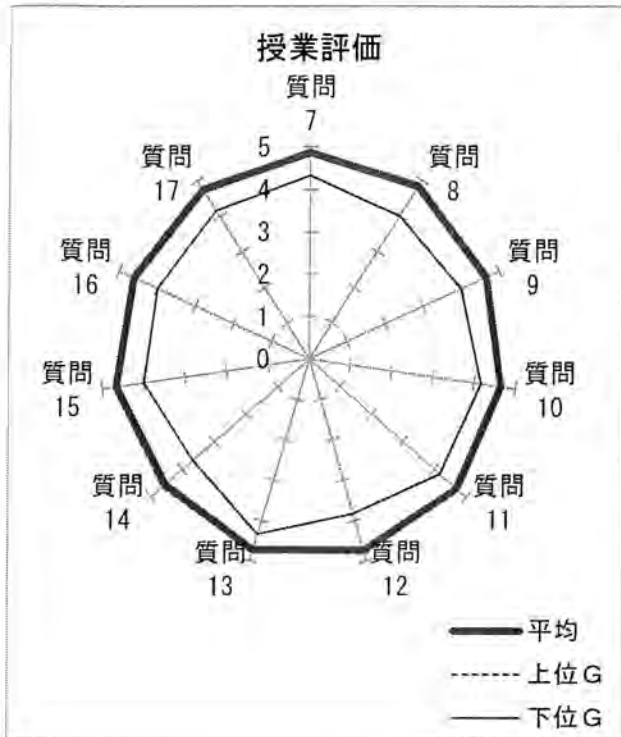
2019年度担当予定科目名：音楽の世界

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

300年前から、現代にいたるまでの各時代の作品を取り上げているが、現在を生きる我々にとっての意味合い、現代に生きる学生たちの糧となるような内容、話題を常にアップデートし、提供していきたい。教材、映像を使うスタイルは、同じやり方で進めて良いと考える。

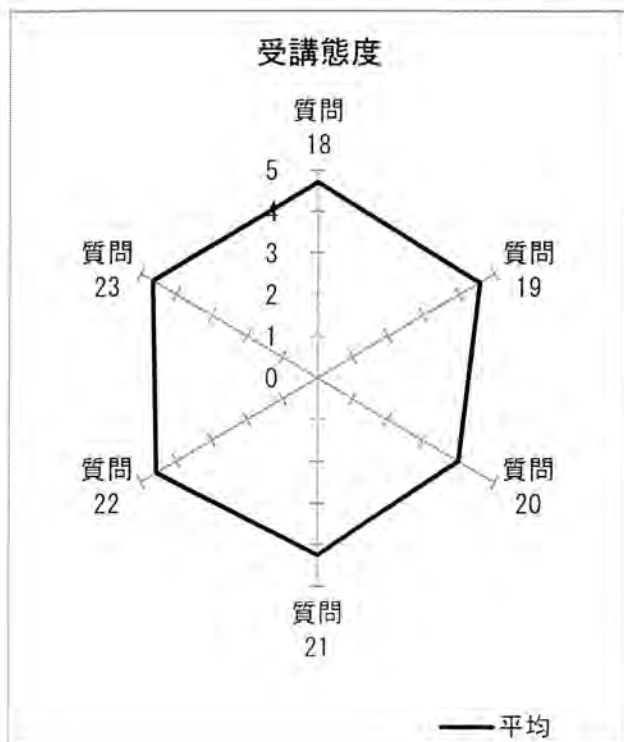
科目コード 671 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 久木野 睦子 キャリア形成講座



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	4.3
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.7	4.7	4.0
質問10	4.6	4.7	4.2
質問11	4.7	4.8	4.2
質問12	4.7	4.8	3.8
質問13	4.7	4.8	4.3
質問14	4.5	4.6	3.7
質問15	4.7	4.7	4.0
質問16	4.6	4.7	4.0
質問17	4.8	4.8	4.2
平均	4.7	4.8	4.1

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性

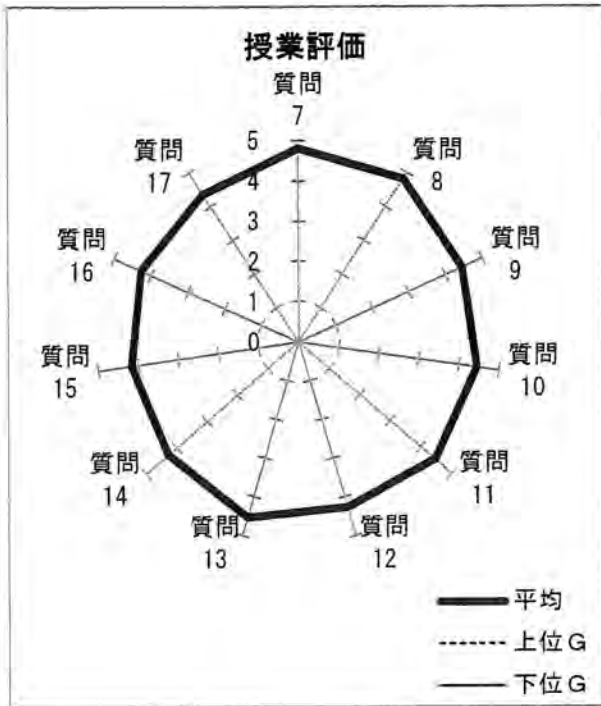


質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.0
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.7
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

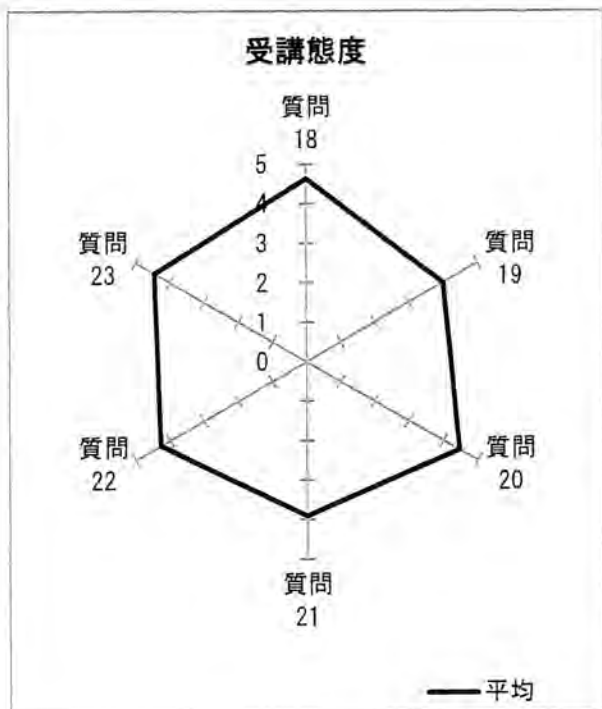
科目コード 802 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 田淵 久美子 生徒指導論(食子)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.5	4.5	#DIV/0!
質問10	4.5	4.5	#DIV/0!
質問11	4.5	4.5	#DIV/0!
質問12	4.3	4.3	#DIV/0!
質問13	4.5	4.5	#DIV/0!
質問14	4.3	4.3	#DIV/0!
質問15	4.2	4.2	#DIV/0!
質問16	4.3	4.3	#DIV/0!
質問17	4.4	4.4	#DIV/0!
平均	4.4	4.4	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.0
質問20	4.5
質問21	3.9
質問22	4.3
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	田淵久美子	生徒指導論（食子）	11

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教職課程の科目である。平均点としては、4.2～4.8、授業の理解に関する点数が低い。教員としての資質、教員採用試験の内容などを考えると、この内容を理解してもらわないと困ると思う。内容が難しすぎたかどうかという点で言えば、一部を除きほぼ同じ内容の講義である文音デクラスでは、授業の理解について、上位グループでは、4.7、下位グループでは3.7であった。4.2というのは、講義の内容や方法に原因があるものではないと考えられる。

II. 2019年度に向けての取り組み

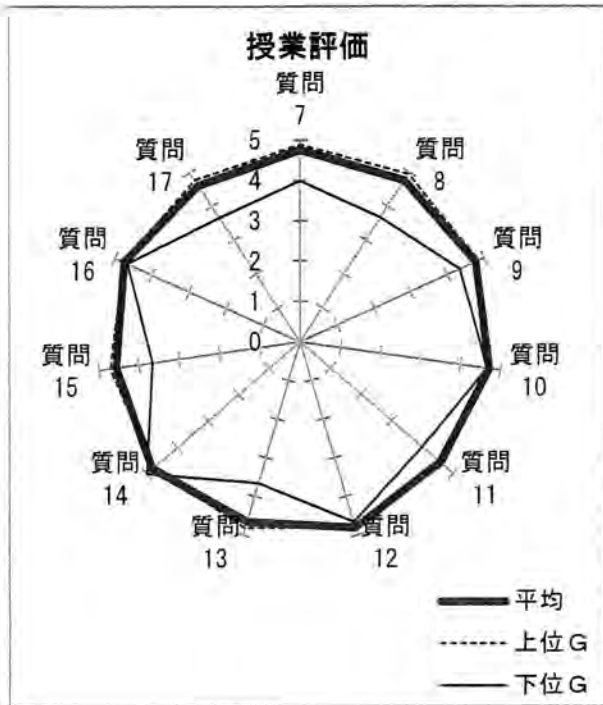
2019年度担当予定科目名： 生徒指導論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

教職課程の講義なので、教員としての資質に関わるため、難易度や内容の量を落とすことはできない。また、今年度もレジュメを工夫するなどしたが、さらにもう少し内容をわかりやすく説明する工夫をしたい。

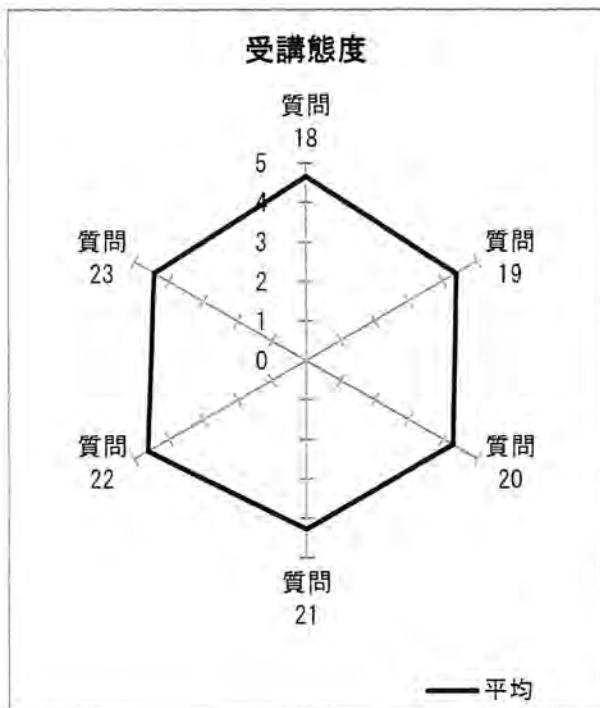
科目コード 803 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 田淵 久美子 生徒指導論(文音デ)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.9	3.7
質問 9	4.8	4.8	4.3
質問10	4.7	4.7	4.7
質問11	4.6	4.7	4.0
質問12	4.8	4.8	4.7
質問13	4.7	4.8	3.7
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.6	4.7	3.7
質問16	4.8	4.8	4.7
質問17	4.6	4.8	3.7
平均	4.7	4.8	4.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.3
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	田淵久美子	生徒指導論（文音デ）	21

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教職課程の科目である。平均点としては、4.6～4.8、上位グループでは、4.7～4.9と比較的点数は良いと思うが、上位グループと下位グループの差が大きい。本来教職課程の科目において、受講態度下位グループの学生がいてよいのだろうかと思う。実際に、テストで単位を取れなかった人数と下位グループの人数とはほぼ同じくらいのようにも思われる。

II. 2019年度に向けての取り組み

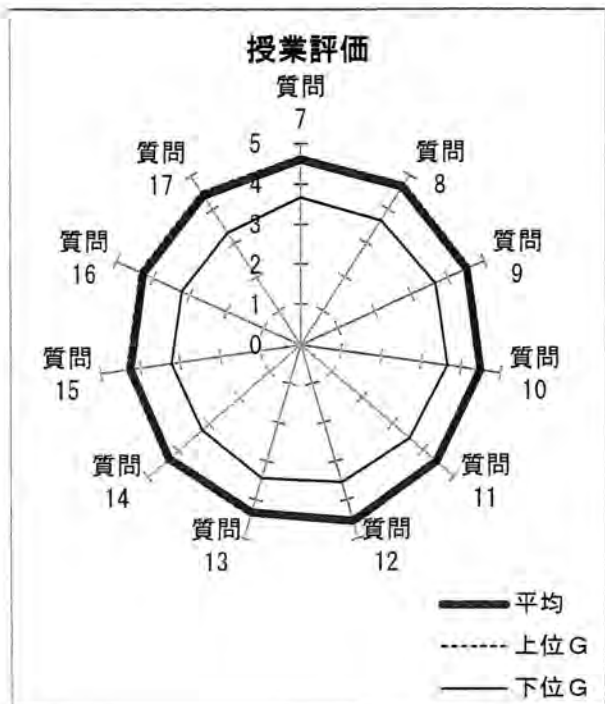
2019年度担当予定科目名： 生徒指導論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

教職課程の講義なので、教員としての資質に関わるため、難易度や内容の量を落とすことはできない。受講態度の悪い学生への授業参加への促しや注意をする。また、今年度もレジュメを工夫するなどしたが、さらにもう少し内容をわかりやすく説明する工夫をしたい。

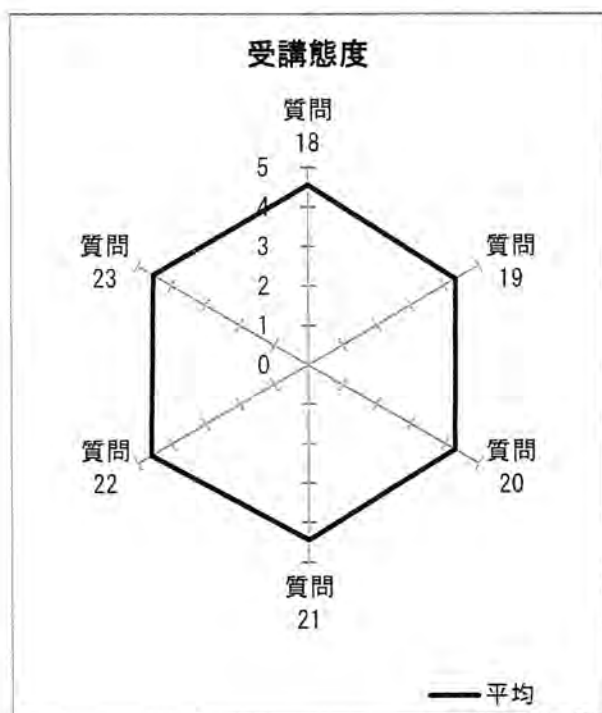
科目コード 809 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 石川 由香里 ジェンダーから見る社会



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	3.7
質問 8	4.7	4.7	3.7
質問 9	4.5	4.6	3.7
質問10	4.5	4.6	3.7
質問11	4.4	4.5	3.6
質問12	4.6	4.6	3.6
質問13	4.3	4.4	3.4
質問14	4.3	4.4	3.2
質問15	4.3	4.3	3.2
質問16	4.3	4.4	3.2
質問17	4.4	4.5	3.3
平均	4.4	4.5	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.3
質問21	4.4
質問22	4.6
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
全学部	全学科	石川由香里	ジェンダーから見る 社会	100

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この科目については、教養の選択必修科目となっているために、毎年授業評価アンケートを実施している。仕方なく履修している学生が少なくないことは、専門科目あるいは選択科目に比べて評価が低めになる理由の一つとは言えるものの、今のままは学生を引き付ける力がやはり不足していると認めざるを得ない。

主体的な取り組みを促すために、毎回予習ワークシートを配布し、それをもとにグループワークを行うという形態をとっている。しかし実際には予習をしてこない学生も多く、それが逆にきちんと予習をしてくる学生の負担感につながり、悪循環を引き起こしている。

また、毎回、出席調査票にコメントを書いてもらいながら、実際にはほとんど回答することができず、質問機会の確保と質問への適切な対応がなされていなかったことには、大いに反省させられる。

II. 2019年度に向けての取り組み

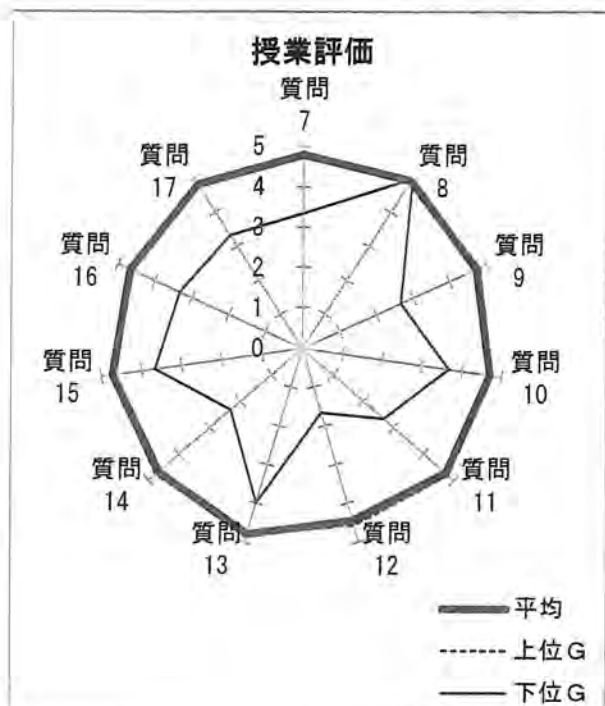
2019年度担当予定科目名：ジェンダーから見る社会

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

予習ワークシートを配布し、それをもとにグループワークを行うという形式はそのまま続けるが、予習のチェックのために、予習ワークシートを集める回を作る。また映像の使用など、学生の関心をより引き付けることができる仕掛けを考える。何よりも、なぜこの科目が選択必修となっているのか、授業の意義について納得してもらえるように説明する。

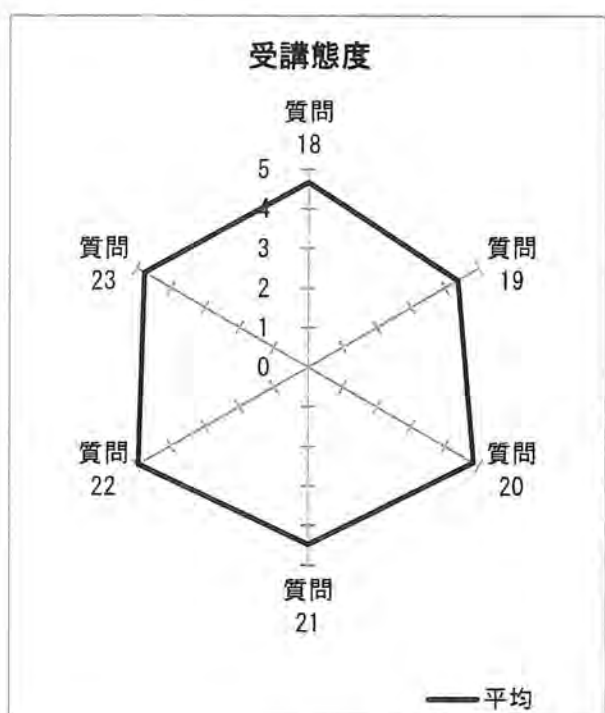
科目コード 981 (2018年度 後期)

看護学部 看護学科 永田耕司 カウンセリング論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.9	3.3
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.7	4.8	2.7
質問10	4.7	4.8	3.7
質問11	4.7	4.8	2.7
質問12	4.5	4.6	1.7
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.7	4.8	2.3
質問15	4.7	4.8	3.7
質問16	4.7	4.8	3.3
質問17	4.8	4.9	3.3
平均	4.7	4.8	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
看護学部	看護学科	永田	カウンセリング論	73名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回、7 回目の評価となったが、平均が 4.7 点と、全体平均 4.6 点より高かった。これまでで、最も高得点であった。カウンセリング論では、实际的に患者や家族とどうコミュニケーションをしていくかについて、実際の事例（ターミナルケア、在宅ケア、学校現場など）を用いてのやりとりについてグループワークを取り入れてきている。このように、事例を交えながら、学生にとってわかりやすいように心がけて授業を行って、また更に家族の話を特別講話として入れており、身近な問題として定着させていると考えられた。結果は質問 7「授業目的・内容の十分な説明、シラバスに沿った実施」が 4.8 点と昨年の 4.7 点より上がっていた。また最も低得点であったのが、質問 12 の教員の授業環境に対する配慮が 4.5 点であったが、昨年の 4.3 点より上がっていた。しかしながら、学生から私語への注意喚起のコメントがあった。更に私語への注意喚起を促していきたい。

今回は質問 8 の時間厳守が最も 4.9 点と高かった。質問 7「シラバスに沿った実施」、質問 13「質問への対応」、質問 17「知識、技術、理論への有用性」が 4.8 点と高かった。質問 11 の授業のわかりやすさであった。看護師が患者や家族に対してカウンセリングがどのように使われていくのかについて、その必要性・重要性についての確認を今回は十分に行えたと考えられる。カウンセリングが看護にどのように必要かについて内容の十分な説明を行ってきた結果になったと考えられる。質問 9 の教員の話し方も 4.7 点と昨年の 4.6 点と比べて、わずかに上がっていた。引き続き、よりわかりやすく、早口にならないように心がけてきた結果であると考え。今後も、引き続き事例を多く交えて、より実践的にわかりやすく説明している。また、板書もできるだけしないで、話し方も早口にならないようにゆっくりと行っているため、評価が全般的に上がっていたと推察される。更に今後とも、より実践的に、よりわかりやすい配布資料にして、理解度をより深めていきたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

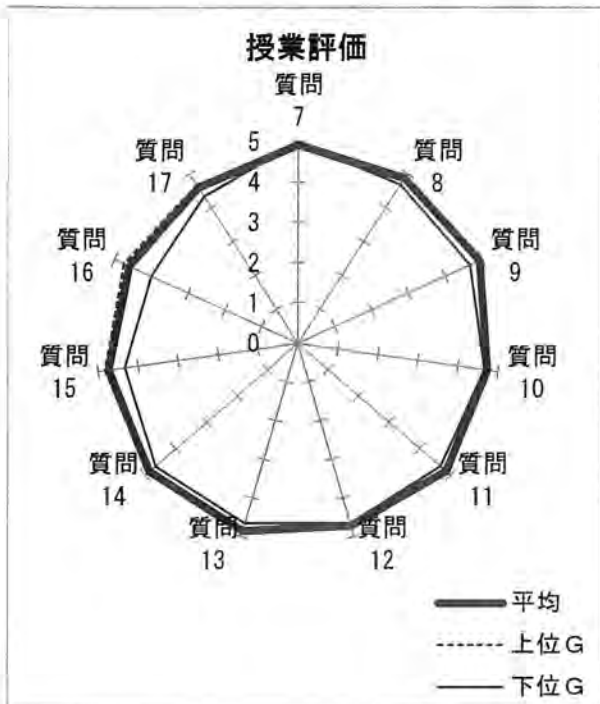
2019 年度担当予定科目名：カウンセリング論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019 年度新カリキュラムからカウンセリング論は 2 単位から 1 単位となる。よって 15 回実施してきた授業回数が 8 回と減る。これまで、実施してきたグループワークや事例の紹介が減ると考えられる。今後は、わかりやすい配布資料を用いながら、簡潔にポイントを抑えながら、理解度を高めていきたい。授業回数減っても、学生が興味・関心が深まるような、より工夫した授業を心がけていきたい。

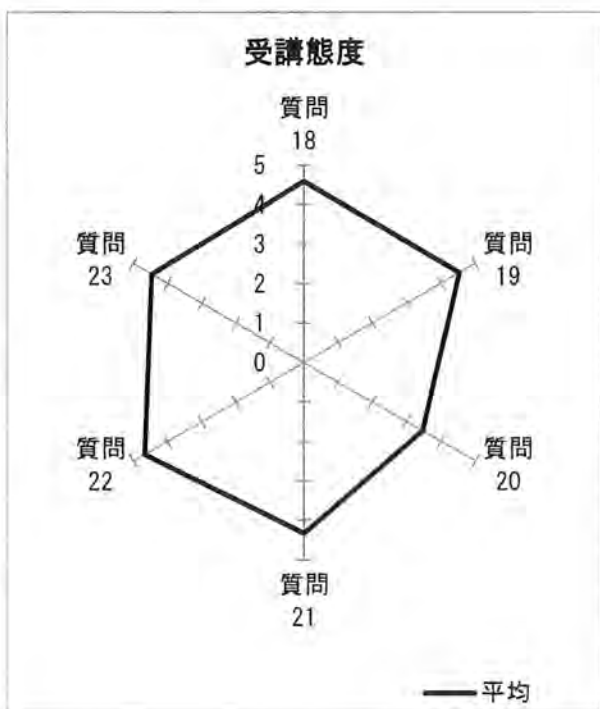
科目コード 523 (2018年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 祐也 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	4.7
質問 9	4.9	5.0	4.7
質問10	4.7	4.8	4.7
質問11	4.9	4.9	4.7
質問12	4.7	4.8	4.7
質問13	4.9	4.9	4.7
質問14	4.9	4.9	4.7
質問15	4.7	4.8	4.3
質問16	4.6	4.8	4.0
質問17	4.6	4.7	4.3
平均	4.8	4.8	4.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は)授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	3.5
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : (自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿南 祐也	教養セミナーⅡ	18名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価アンケートは悪い結果ではなかったが、最終回で提出された新聞記事スクラップや論文の出来からは、授業内容に不十分な点があると感じた。論文作成に向けて、テーマや問いの設定方法、論証の手順などを授業内容に含める必要があったと考える。また、学生はかなりの労力をかけて新聞記事スクラップを行っているので、授業内で新聞記事スクラップを活用する内容を増やす必要があると考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

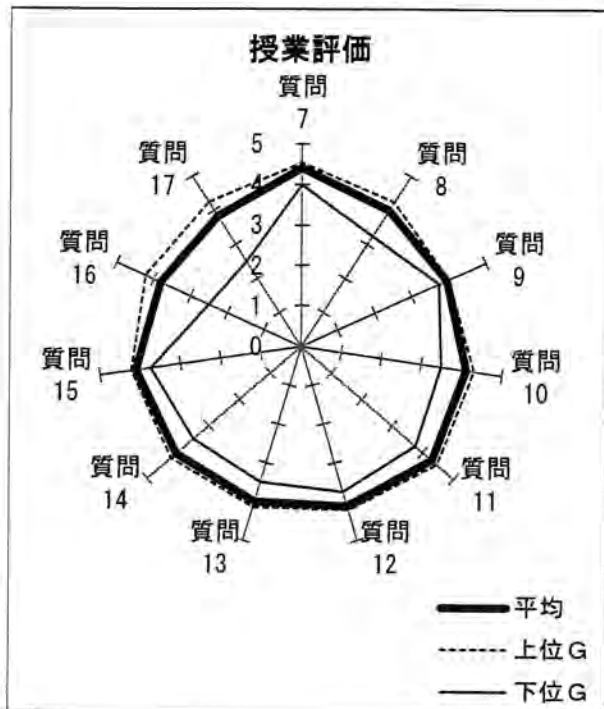
2019年度担当予定科目名：教養セミナー、キャリアデザインセミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019年度は教養セミナー全体の授業計画を担うので、学問の思考法や批判的思考など、テーマや到達目標を明確にして学生が大学生活を円滑に送れるような初年次教育としたい。

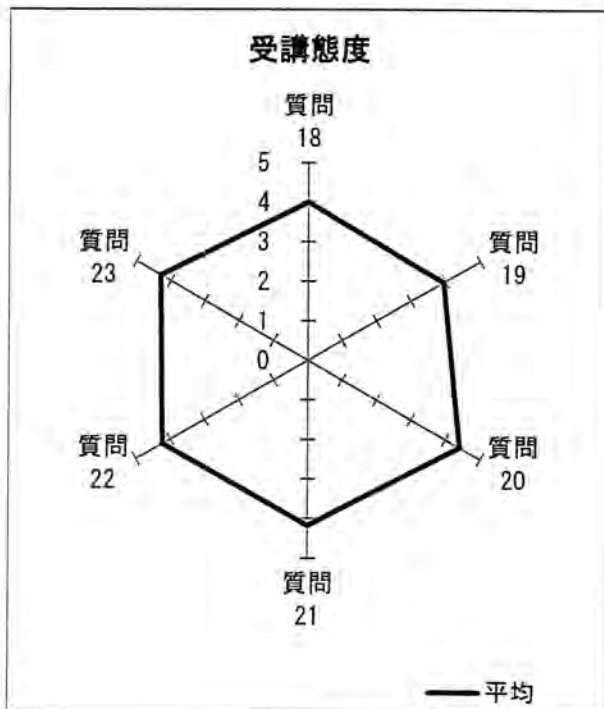
科目コード 527 (2018年度 後期)

国際文化学部 英語学科 狩野 暁洋 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.5	4.0
質問 8	4.0	4.2	3.3
質問 9	3.9	4.0	3.8
質問10	4.1	4.3	3.5
質問11	4.3	4.5	3.8
質問12	4.1	4.2	3.8
質問13	4.0	4.2	3.5
質問14	4.1	4.2	3.5
質問15	4.1	4.2	3.8
質問16	3.8	4.2	2.5
質問17	3.8	4.2	2.5
平均	4.1	4.3	3.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.0
質問19	3.9
質問20	4.4
質問21	4.2
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	狩野 暁洋	教養セミナー II	18人

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体評価は5段階評価で4.1と比較的高いが、質問項目によっては下位Gの学生から厳しい評価を受けている。特に質問16と17に関する評価が好ましくない。つまり、下位Gの学生は興味・関心・意欲をもてず、知識や技術の習得にもそれほど役立たなかったと考えているようである。質問8～15は授業環境や運営に関する質問で、これらの質問に対する下位Gからの評価は決して低くない。つまり授業運営や学習環境に関してはそれほど問題がないが、知識や技能の習得に結びつかず、それゆえに興味や関心を引き出せなかったという解釈が可能である。授業では論文作成指導なども行ったが、確かな技術として身につけなかった感がある。教養セミナーは全学で取り組んでいる初年度必修科目で、新聞スクラップの作成、ワークシートへの取り組み、読書ノートの記入、論文の提出など要求されるものが多く、下位Gの学生が消化不良を起こしてしまっている可能性がある。

II. 2019年度に向けての取り組み

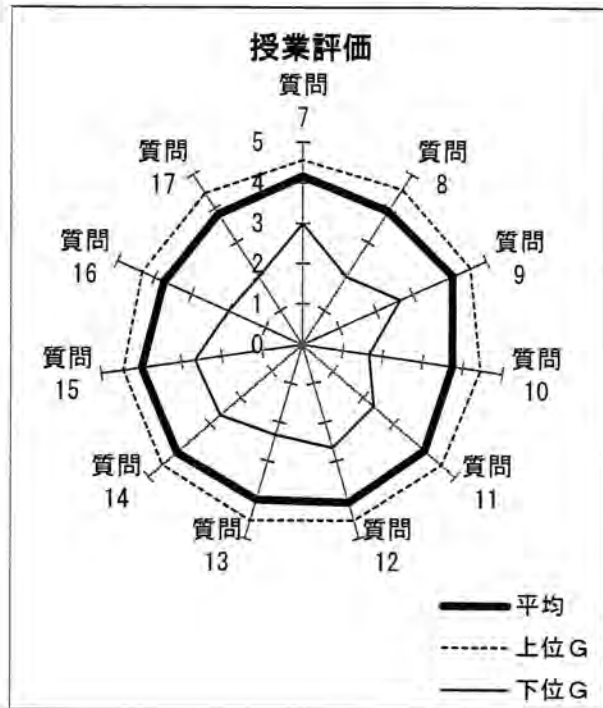
2019年度担当予定科目名：教養セミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

「教養セミナーI(前期)」と「教養セミナーII(後期)」が2019年度から「教養セミナー(前期)」と「キャリアデザインセミナー(後期)」に変更される。内容は全学で統一されており、担当教員は授業終了後に度々、話し合いの機会をもっている。活発に意見を出し合いながら、下位G学生にも興味深い学習内容になるよう調整してゆきたい。

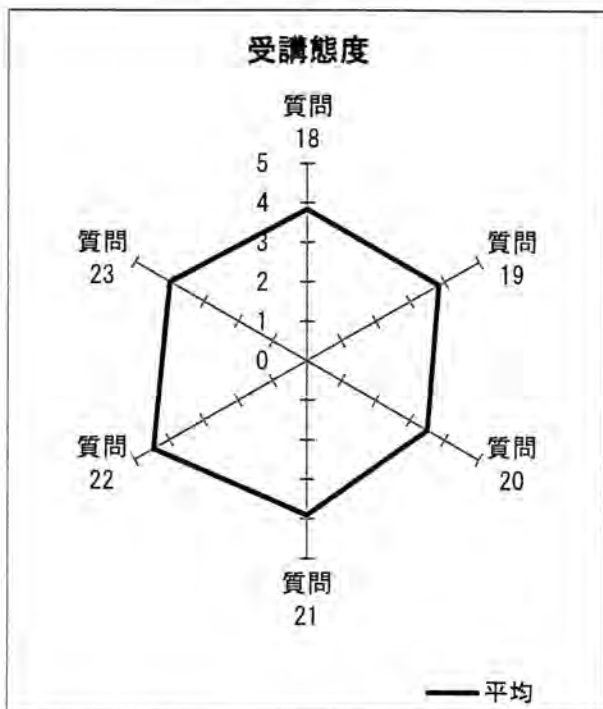
科目コード 530 (2018年度 後期)

健康生活学部 子ども学科 篠永 洋 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.6	3.0
質問 8	3.9	4.6	2.0
質問 9	4.1	4.6	2.7
質問10	3.8	4.4	1.7
質問11	4.0	4.6	2.3
質問12	4.1	4.6	2.7
質問13	4.0	4.6	2.3
質問14	4.1	4.6	2.7
質問15	4.0	4.4	2.7
質問16	3.8	4.3	2.0
質問17	3.8	4.4	2.0
平均	4.0	4.5	2.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	3.8
質問19	3.8
質問20	3.5
質問21	3.9
質問22	4.5
質問23	4.0
平均	3.9

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	篠永 洋	教養セミナーⅡ	18

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

クラス編成の変更が無く、前期と同じ学生を担当した。

前期同様下位Gのポイントが非常に低くなっている。前期で感じた、授業の内容が、興味・関心・意欲を全く引き出されることが無い内容であるということから脱却することが最後まで出来なかったということがこの数字に表れていると思う。最後の論文の提出まで、スクラップや課題が実際にどのようにつながり、役立つ内容となっているのかを学生に理解してもらうことが出来ていなかったということだろう。板書については、コースブックを参照しながら授業を行ったので、あまりすることが無かった。そのため、数字が低くなっているのは致し方ないと思う。ただ、コースブックの内容を参照しながら、自分なりの解説を入れていったつもりであったが、さらに学生に届く言葉を選ばなければならない。

質問 16, 17 のポイントが低いのも前述したとおり、学生の意欲を引き出す授業が出来ていなかったということの表れである。

II. 2019年度に向けての取り組み

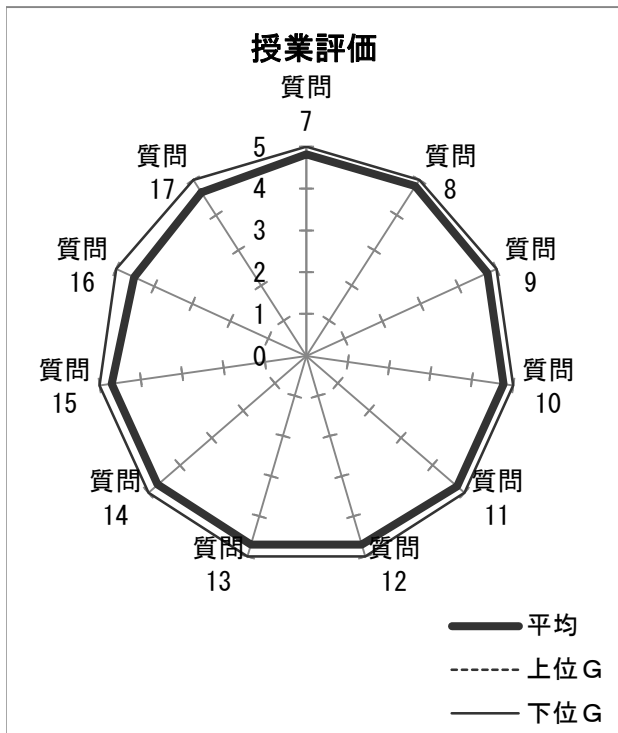
2019年度担当予定科目名： 教養セミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度も同じ科目を担当することになるが、「教養セミナー」としては前期のみの開講となるため、短期間で学生がアカデミックスキルを身につけることが出来るよう、興味を持続させる内容となるように取り組んでゆきたい。

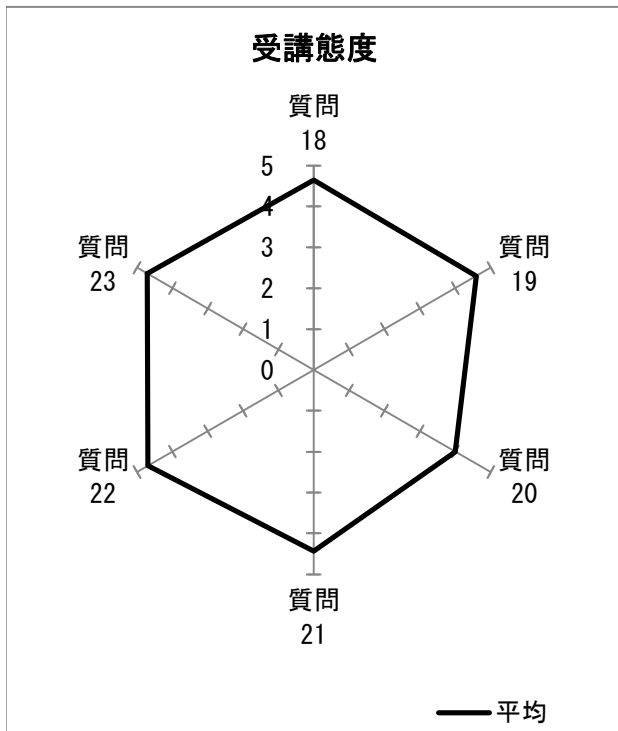
科目コード 531 (2018年度 後期)

国際文化学部 日本文化学科 常吉 幸子 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.8	4.8	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.7	4.7	5.0
質問13	4.7	4.7	5.0
質問14	4.7	4.7	5.0
質問15	4.7	4.7	5.0
質問16	4.5	4.5	5.0
質問17	4.6	4.6	5.0
平均	4.7	4.7	5.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	4.0
質問21	4.4
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	常吉 幸子	教養セミナーII	17

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

このクラスは、課題への取り組みは熱心だったし、前期からの持ち上がりなので「顔見知り」でもあり、大変楽しく、効果的に指導を行うことができた。

「こうしなければならない」というような押しつけも、これも「どちらかといえば」しないですんだ、そういう押しつけは、結局効果は挙がらないものであることは、ベテラン教員なら誰でもご存じのことである。今まで「教養セミナー」での授業評価にコメントを出したことはなかったが、一度ぐらいはと考え、取り上げてみることにした。

教養セミナーは、いわば「お仕着せ」のゼミで、原則同じ内容を全学の1年生に学ばせるような形になっている。だから、教員の独自色などは薄かろうと思う。肝腎なポイントさえ押さえてくれればよい。学生自身がどうしたいのか、を尊重して、「こういうやり方では駄目ですか」などと聞いてきたことについては、すべて許可するのが、このクラスの指導の方針であった。

このクラスのよかったところは、口頭発表の際に、私が所見を述べてももっとこうすれば、または、ここを調べてみたら、またあるいは、このテーマなら「〇〇〇〇」という人を調べてみると、面白いかもしれない、などとコメントしたことがらについて、その「仕上げ」としての論文で、ちゃんと応えてくれたことである。学生に圧力を加えたりせず、自発性を、つまりやりたいことを尊重することによって、むしろそのような指示やヒントを、「渴望」する状態にあったのだろう。結果としての論文は、総じてよくできていた。

かれらは終始楽しそうにしていた。悪いことではない。私も楽しかったので。ただ、学生たちの側からの意見や志向を引き出すことについては、もっと工夫できる点があったかもしれないと考えている。

II. 2019 年度に向けての取り組み

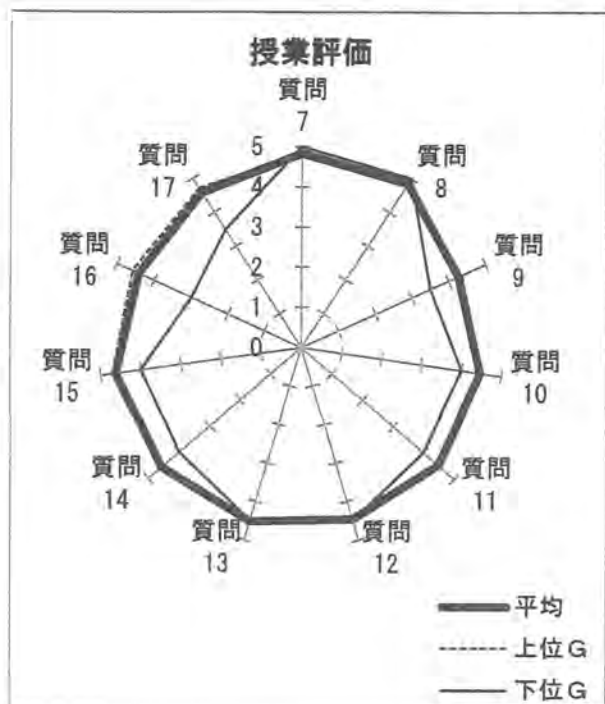
2019 年度担当予定科目名： 教養セミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019 年度から、I II と前期・後期で実質通念で指導を行うのではなく、前期のみの半期のサイズにちぢむ。同様の「お仕着せ」ゼミでもあるので、そのプランにしたがって、またいい雰囲気をつくって行けたらと考えている。

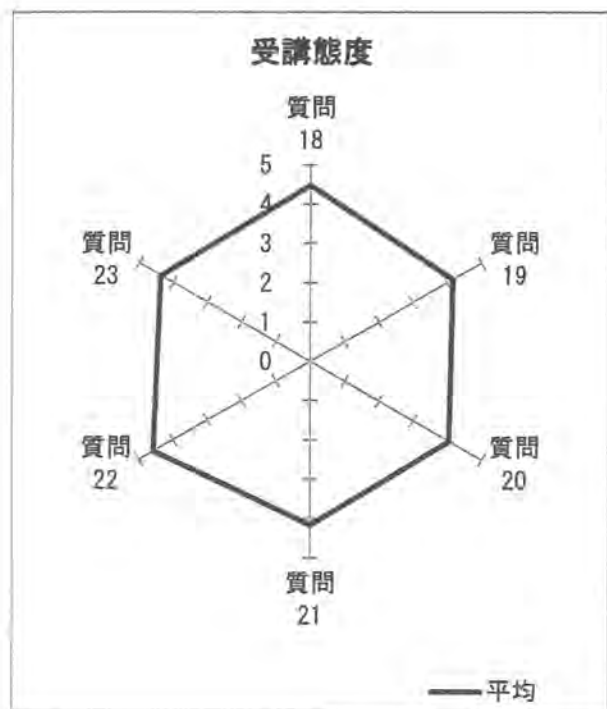
科目コード 535 (2018年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 毛利 洋子 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.3	4.4	3.5
質問10	4.5	4.5	4.0
質問11	4.5	4.5	4.0
質問12	4.5	4.5	4.5
質問13	4.5	4.5	4.5
質問14	4.6	4.6	4.0
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.4	4.6	3.0
質問17	4.6	4.7	3.5
平均	4.6	4.6	4.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.2
質問20	4.1
質問21	4.2
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	毛利洋子	教養セミナーⅡ	19

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

シラバスに沿った実施や、時間遵守に関しては、高い評価を得ている。教員の話し方、興味関心の引き出しに関して4.5を下回る評価となり、この科目の中では低い評価となった。

教員の話し方に関して、上位の評価もこの科目の中では低く、下位の評価も低い。この科目は、講義型の授業ではなく、マイクも使用することはなかった。詳細は把握できない。しかし、自ら気にかけている点として、声の大きさや、一つ一つの説明の区切り方、説明の順序、声の強弱の付け方、意識の向け方などがある。

興味関心を引き出すには、上位と下位の差が大きく、一部の学生には貢献できなかったと思われる。気持ちが向かない学生のサポートが必要だと考えられる。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： _____ 該当科目無し _____

2019年度は、担当が変わり、特に同等の科目を担当することはない。ガイダンス時の説明や、ディスカッションが必要な講義の際に、心がける。